

# 第一篇 『歴代三寶紀』の研究

## —中國中世佛教史における史學史的展開過程—

序章 經錄と史書——魏晉南北朝隋唐期における佛教史編纂の試み—— 3

一 はじめに 3

二 經典目錄の發生と史書的性格 5

三 佛教編年史——佛教史總合の試み——の出現と變質 7

四 經錄における佛教編年史の繼承と紀年法 10

五 『佛祖統紀』の編纂——紀傳・編年兩體の自覺とその特質—— 13

六 結び 16

### 第一章 中國撰述佛典と讖緯

——典籍聚散の歴史を契機として——

一 はじめに 21

二 譖緯焚毀の経過と偽經目錄の制定 22

三 戒律關係の中國撰述佛典と『淨度三昧經』 27

四 結び 31

## 第二章 梁代佛教類書と『經律異相』

一 はじめに 35

二 梁代佛教類書の概要 36

三 『經律異相』の成立 48

四 結び 62

附 63

## 第三章 『歴代三寶紀』の成立と費長房の歴史觀

一 はじめに 71

二 費長房の履歴 72

(一) 隋以前 72  
(二) 隋時代 74

三 『三寶紀』編纂の過程について 79

四 『三寶紀』の構成と費長房の歴史意識 86

五 結び—『三寶紀』編纂の時代的背景について— 96

## 第四章 『歴代三寶紀』 帝年攷

一 はじめに 110

二 帝年作成の意圖 113

三 帝年引用の史籍 122 113

四 結び 127

## 第五章 中國佛教における通史の意識

—『歴代三寶紀』と『帝王年代錄』—

一 はじめに 133

二 魏晉代以降における帝紀・年曆類の概観と『佛祖統紀』

三 『歴代三寶紀』と『帝王年代錄』 140

(一) 『歴代三寶紀』、及びそれに先行する史書・年曆類 141

(二) 唐代における年曆類と『帝王年代錄』 153

135

133

## 第六章 『歴代三寶紀』と唐・道宣の著述

—『續高僧傳』譯經篇第一と『大唐內典錄』—

一 『續高僧傳』——譯經者の傳記——と『歴代三寶紀』

173

173

110

二	『大唐内典錄』と『歷代三寶紀』	179
(一)	はじめに	173
(二)	譯經篇の類型	174
(三)	傳文構成の意味するもの	177
第七章	『大周刊定衆經目錄』の成立と譯經組織	
一	はじめに	195
二	『武周錄』の刊定者列名と所屬寺院	196
三	『武周錄』と所依經典目錄	207
四	結び	210

## 第二篇 中國中世佛教の地方的展開

序	219
第一章 梁代貴族佛教の一面	222
一 武帝をとりまく高僧たち	222
二 武帝をとりまく高僧の類型	225
三 結び	236
第二章 六～七世紀における荊州佛教の動向	243
一 はじめに	243
二 後梁時代の荊州佛教	244
(一) 宣帝時代	244
(二) 明帝時代	248
三 隋末唐初の荊州佛教	252
(一) 朱粲・蕭銑の亂と荊州佛教	252
(二) 驪山津梁寺と四望山開聖寺	252
257	252
243	222

四 結び 260

第三章 北朝末隋初における襄陽と佛教

一はじめに 266

二 北朝・隋による襄陽支配と總管 267

(一) 五五〇年～五六四年 268

(二) 五六五年～五七四年 272

(三) 五七五年～五八九年 274

(四) 五九〇年～六〇五年 280

281

三 啓法寺碑に見える襄陽と佛教

四 結び 288

第四章 六～七世紀における三論學傳播の一面

—安州慧嵩を中心として—

一 はじめに 296

二 安州・茅山時代—南北朝末～隋— 298

三 四川への遊化—隋末唐初—

306

四 四川からの退出と安州歸還—唐・武德～貞觀時代—

311

五 結び——慧嵩以後—— 315

第五章 六～七世紀における四川佛教の動向

—益州と綿州、及び震響寺— ······

一 はじめに——六朝末隋唐代四川佛教の研究史的概觀—— 324

二 北朝・隋初の益州佛教の政治史的概觀と、

益州寺院の持つ特色について 327

三 綿州と震響寺 335

四 結び——唐代四川における護法僧—— 344

第六章 中國における石刻經典の發生と展開 ······

一 はじめに 353

二 石刻經典の發生——東魏・北齊時代—— 355

三 石經の展開（一）——北齊・北周末の山東—— 359

四 石經の展開（二）——隋唐時代の河南・河北—— 361

五 石經の展開（三）——唐時代の四川—— 365

六 石經盛衰の背景と變容 370

## 第七章 北齊佛教衰亡的一面

—摩崖石刻經典の盛行と衰退を通して—

- 一 はじめに 385

- 二 北朝隋初の「山東」の動向 386

- 三 南朝陳討滅と「山東」 390

- 四 「山東」地域と佛僧の動向 392

- 五 北周末・隋代の佛教界統制策 393

## 第八章 隋唐時代の寶山靈泉寺

—寶山靈泉寺石窟塔銘の研究—

- 一 はじめに 397

- 二 寶山靈泉寺石窟の地理的概況 398

- 三 東魏北齊・隋・唐時代の相州と靈泉寺—歴史地理的概況—

- 四 寶山塔銘に見られる唐代相州の寺院  
—靈泉寺及び大慈寺、慈潤寺、雲門寺—

403

401

- (一) (二) (三)  
寶山塔銘の概況 403  
靈泉寺 405  
大慈寺 407

四	慈潤寺	407
(五)	雲門寺—光嚴寺	409
五	寶山靈泉寺と林慮山峴谷寺、及び翻經事業	
六	寶山塔銘における尼寺、尼僧、優婆夷	414
附	寶山靈泉寺石窟塔銘—釋文・訓讀・拓影—	
	425	
		410
初出	一覽	488
あとがき		
索引	1	490